

学 会 記 事

I. 運営委員会報告(議事のみ)

1998年10月2日に横浜国立大学環境科学研究センターにおいて開催

①編集委員会による植生学会誌投稿規定改訂(案)ならびに同執筆要領改訂(案)について承認した。

②1998年度総会の議題整理を行った。

II. 編集委員会報告(議事のみ)

1998年10月2日に横浜国立大学環境科学研究センターにおいて開催し、植生学会誌投稿規定および植生学会誌執筆要領の改訂について審議した。

III. 1998年度総会報告

1998年10月3日に横浜国立大学教育人間科学部において1998年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

A. 報告事項

1. 事務局(庶務関係)

①1998年9月22日現在の会員数は413名である。

②学術刊行物指定の申請書類を作成し、大会終了後発送する。

③学会ホームページ(<http://www.tuat.ac.jp/~shokusei/>)を開設した。

2. 事務局(会計関係)

①本年度の予算執行状況について

3. 事務局(編集関係)

①1997年10月から1998年9月までの間に植生学会誌14巻2号(掲載論文数6編, 総頁数73頁)と同15巻1号(掲載論文数8編, 総頁数77頁)を発行した。

②1997年10月から1998年9月の期間の投稿論文数は15編。

③植生学会誌投稿規定の2の「原稿の種別は、原著論文、総説、短報とする」を「原稿の種別は、原著論文、総説、短報、資料とする」と改訂する。また、植生学会誌執筆要領の2の「短報は、」を「短報および資料は、」に、同7の「短報は2ページまでは」を「短報および資料は4ページまでは」とする。さらに、同8の「・・・陽画を用いる。」と「なお、・・・」の間に「図表、写真等の挿入希望位置を本文原稿の余白に朱書きで指定すること。」を加える。

なお、この規定および要項は1998年10月3日より適用する。

別掲1. 植生学会1997年度収支決算

(単位:円)

収入の部		予算	決算	差異	備考
前期繰り越し		464,802	1,079,301	-614,499	
会費		1,900,000	1,327,000	573,000	
雑収入	広告料など	50,000	282,000*	-232,000	*会誌超過ページ分収入を含む
	利息	0	84	-84	
計		2,414,802	2,688,385	-273,583	
支出の部					
本誌刊行費	500,000円×2回	1,000,000	1,292,550	-292,550	
情報誌刊行費	300,000円×1回	300,000	0*	300,000	*支払いを次年度に繰り延べ
送料		200,000	282,321	-82,321	
事業費	シンポジウム開催費など	100,000	0	100,000	
学会事務局経費		200,000	37,502	162,498	
編集事務局経費		200,000	62,885	137,115	
予備費		414,802	0	414,802	
計		2,414,802	1,675,258	739,544	
収支差額(繰り越し)		0	1,013,127	-1,013,127	

別掲2. 植生学会1998年度収支予算

(単位:円)

収入の部		1998年度	1997年度	差異	備考
前期繰り越し		1,013,127	464,802	548,325	
会費		2,340,000	1,900,000	440,000	
雑収入	広告料など	282,000	50,000	232,000	
計		3,635,127	2,414,802	1,220,325	
支出の部					
本誌刊行費	650,000円×2回	1,300,000	1,000,000	300,000	
情報誌刊行費	300,000円×2回	600,000*	300,000	300,000	*1997年度分(300,000)を含む
送料		300,000	200,000	100,000	
事業費	シンポジウム開催費など	100,000	100,000	0	
学会事務局経費	選挙費用を含む	200,000	200,000	0	
編集事務局経費		200,000	200,000	0	
大会補助費		200,000*	0	200,000	*第3回大会分(100,000)を含む
予備費		735,127	414,802	320,325	
計		3,635,127	2,414,802	1,220,325	

B. 承認事項

1. 1997年度の収支決算(別掲1)
2. 1998年度の収支予算(別掲2)
3. 会則の改正(運営委員の選出方法の変更)(別掲3)
4. 会長・運営委員選挙施行細則の制定(別掲4)
5. 次期会長および運営委員の選挙日程は、選挙人確定を1998年11月30日、投票用紙発送を1999年1月11日、投票締め切りを同年2月10日(必着)とした。
6. 日本学術会議登録団体への申請を次期登録時に行うこととし、関連研究連絡委員会の希望順位は第1位を生態・環

境生物学(第4部)に、第2位を自然保護(第6部)とした。

7. 植生学会第4回大会を1999年7月16日(金)～7月18日(日)に北海道教育大学旭川校で開催する。

C. その他

1. 1999年度大会会場となる北海道教育大学旭川校の橘ヒサ子氏より、大会企画の概要説明があり、多数の会員の参加が要請された。

別掲3. 植生学会会則改正条項

旧	新
第7条 5) 本会の会長を選任し、またはこれに選任されること。ただし、この権利は正会員(国外在住の会員を除く)に限る。 6) 会長の指名により本会の運営委員に選任されること。ただし、この権利は正会員(国外在住の会員を除く)に限る。	第7条 5) 本会の会長・運営委員を選任し、またはこれらに選任されること。ただしこの権利は正会員(国外在住の会員を除く)に限る。 (削除)
第9条 ②運営委員若干名	第9条 ②運営委員12名
第10条 2) 運営委員は会長が指名し、総会の承認を得る。 3) (幹事長, 幹事, 会計監事, 編集委員長選任条項) 4) (編集委員選任条項) 5) (役員任期条項)	第10条 2) 運営委員は全国から正会員の互選によって選ばれた全国選出委員5名および北海道, 東北, 関東, 中部, 近畿, 中国・四国, 九州・沖縄の各地区居住の正会員の互選によって選ばれた地区選出委員各1名とする。 3) 会長および運営委員の選出に関するその他の事項は別に定める。(新設*) 4) (旧3項と同じ) 5) (旧4項と同じ) 6) (旧5項と同じ)

*植生学会会長・運営委員選挙施行細則参照

別掲4.

植生学会会長・運営委員選挙施行細則
(1998年10月3日制定)

- 第1条 本細則は植生学会会則第10条の1および2に定められた会長および運営委員の選出に関する手続きを定めたものである。
- 第2条 会長および運営委員の選挙事務を処理するため、会長・運営委員選挙管理委員会(以下、選挙管理委員会という)を置く。
2) 委員長は学会幹事長をもって充て、委員(若干名)は委員長が指名する。
- 第3条 選挙は正会員の互選(無記名投票)による。
2) 投票は所定の投票用紙を用い、選挙管理委員会が定めた期日までに到着するように投票しなければならない。
3) 会長選挙用紙には1名の氏名を、運営委員選挙用紙には、全国選出運営委員については5名の氏名を、また地区選出運営委員については投票者の居住地区(会員名簿住所による)の1名を記入する。
4) 会長選挙において、会長は有効最多票を得た者を当選者とする。最多票で同得票数の者が複数あるときは、年少者を当選者とする。
5) 運営委員選挙において、運営委員は有効票順に上位から当選者とし、末位に同得票数の者がいるときは年少者を当選者とする。
6) 同一人が会長と全国選出運営委員および/または地区選出運営委員に当選した場合、その者は会長となり、全国選出運営委員および/または地区選出運営委員にはそれぞれ次点者を繰り上げる。
7) 同一人が全国選出運営委員と地区選出運営委員の両方に当選した場合、その者は全国選出運営委員となり、地区選出運営委員にはその地区の次点者を繰り上げる。
- 第4条 運営委員に欠員が生じた場合は、次点者を繰り上げて当選者とし、その任期は前任者の残任期間とする。
- 第5条 会長および運営委員の選出の手続きに関するその他の事項は、選挙管理委員会の判断により措置するものとする。

IV. 植生学会第3回大会報告

植生学会第3回大会が、1998年10月2日から4日にかけて横浜国立大学において開催された(下記日程)。一般講演は42題、シンポジウムは7題の発表が行われた。参加者は予約申込者112名(一般81名, 学生31名)、当日申込者97名(一般59名, 学生38名)の計209名であった。

10月2日: 編集委員会, 運営委員会

10月3日: 一般講演, 総会, シンポジウム, 懇親会

10月4日: 一般講演

一般講演とシンポジウムの演題は以下の通りであった。
一般講演

- A 0 1. 服部 保(姫路工大・自然・環境科学研究所), 石田弘明(兵庫県立人と自然の博物館) 照葉二次林における種組成の特性
- A 0 2. 山本紗知(神戸大・発達科学), 石田弘明(兵庫県立人と自然の博物館), 服部 保(姫路工大), 武田義明(神戸大・発達科学) 対馬の照葉原生林と照葉二次林の比較
- A 0 3. 石田弘明(兵庫県立人と自然の博物館), 服部 保(姫路工大) 宮崎県南部における孤立照葉樹林の種数-面積関係について
- A 0 4. 小館誓治, 服部 保(姫路工大・自然・環境科学研究所) 三田市フラワータウン内孤立二次林の土壌環境-隣接林分間での比較
- A 0 5. 上條隆志(筑波大・農林), 星野義延, 袴田伯領(東京農工大・植生管理) 伊豆諸島八丈島の森林植生の種組成に関する研究
- A 0 6. 小林圭介(滋賀文化短期大), 名迫素代, 麻生 泉(都市緑地研究所) 大津市の植生に基づいた自然景観と自然環境の評価
- A 1 1. 橋 ヒサ子(北教育大・旭川校) 北オホーツク・モケウニ沼湿原における植生の分布構造
- A 1 2. 中西 正(愛知県立豊橋南高校) 渥美半島むくろじ湿原の植生衰退
- A 1 3. 安島美穂, 津田智(岐阜大・流域環境研究センター) 静岡県富士市浮島ヶ原湿原におけるヨシ群落の埋土種子集団
- A 1 4. 石川慎吾, 馬場明子, 江藤宏治(高知大・理・自然・環境科学) 高知県宇佐竜蟹ヶ池の湿生植物群落
- A 1 5. 下田路子, 関岡裕明(東和科学(株)生物研究室), 筒井宏行(株)テクノグリーン), 中本学(大阪ガス(株)), 森本幸裕(大阪府大) 営農作業による休耕地植生管理の試み(第2報)
- A 1 6. 関岡裕明, 下田路子(東和科学(株)生物研究室), 中本学(大阪ガス(株)), 森本幸裕(大阪府大) 営農作業による休耕地植生管理の試み(第3報)
- A 1 7. 辻 秀之(株)里と水辺研究所), 武田義明(神戸大・発達科学), 竹岳秀陽((財)日本気象協会)・寺崎美和(株)ヘッズ)・藤森 豊(日本道路公団大阪建設局) 湿原植生の保全を目的とした移植について-垂水湿地移植後3年までの結果-
- A 1 8. 高橋和成(岡山朝日高校), 難波靖司(岡山県環境保全事業団), 間戸 亨(岡山朝日高校), 波田善夫(岡山理大) 岡山県児島湾干拓地の干拓年代と畦植生との関係
- A 1 9. 野寄玲児, 入岡恭子, 田中祐子(神戸女学院大・人間科学) 北摂地域における棚田周辺草地の植生
- A 2 0. 三浦 修, 石井利正(岩手大・教育) 北上山地の荒廃裸地における植生回復と周水河作用の関係
- A 2 1. 建元喜寿, 中村 徹(筑波大・農) スキー場における硫安散布が植生に及ぼす影響: 野沢温泉スキー場

を事例に

- A 2 2. 持田 誠, 茂野朋昭, 海野芳太郎(酪農学園) 道内2ヶ所のスズラン自生地の植物相
- A 2 3. 大野啓一(千葉中央博) オサバグサの分布と生育環境
- A 2 4. 吉田久視子(神戸大・院・総合人間科学), 鈴木 武(兵庫県立人と自然の博物館), 武田義明(神戸大学・発達・生物) 都市残存緑地におけるカンサイタンポポの遺伝子多様性
- A 2 5. 渡辺幹男, 芹沢俊介, 内藤敬江(愛知教育大・生物), 石黒 整, 小松康彦(トヨタ自動車FP部) 遺伝的構造分析による環境影響評価と保全-愛知万博・環境アセスで注目の植物を材料として
- B 0 1. 沖津 進(千葉大・園芸) サハリン最北端シュミット半島に分布するエゾマツ林の成立機構
- B 0 2. 大場達之(千葉中央博) サハリンの高山植生
- B 0 3. 埜田 宏(森林総研・森林環境) 日本の植生帯の面積
- B 0 4. 渡邊定元(立正大・地球環境科学) 富士山の森林植物帯について
- B 0 5. 原 正利(千葉中央博), 神崎 護, 水野貴司(大阪市大), 野口英之(宇都宮大), K. Sri-ngernyuang(メジャー大), 大久保達弘(宇都宮大), 山倉拓夫(大阪市大), P. Sahunalu, P. Dhanmanonda(カセサート大), S. Bunyavejchewin(タイ森林局) タイ北部熱帯山地林の種組成およびその植生地理学的考察
- B 0 6. 神崎 護(大阪市大), 原 正利(千葉中央博), 水野貴司(大阪市大), 野口英之(宇都宮大) 他6名 熱帯山地林の種多様性-タイ国ドイインタノン山プロット-
- B 1 1. 石橋 昇, 高島 昇, 秋吉知久(広島大・学校教育) 松枯れ被害地における植生遷移
- B 1 2. 高間 一(崇徳中学校), 岸田章一, 豊原源太郎, 出口博則(広島大・理) アカマツ二次林の遷移とマツ枯れ
- B 1 3. 三木直子(岡山大・農), 西本 孝(岡山県自然保護センター), 坂本圭児, 吉川 賢(岡山大・農), 波田善夫(岡山理大・総合情報・生物地球) 岡山県南部花崗岩地域におけるマツ枯れの発生と集水面積の関係
- B 1 4. 栗山みどり, 東郷恵利子, 竹岡 一, 波田善夫(神戸大・院・総合人間科学研究所) 岡山県南部の森林植生 1. 現在の植生
- B 1 5. 波田善夫, 東郷恵利子, 竹岡 一, 栗山みどり(岡山理大・総合情報・生物地球) 岡山県南部の森林植生 2. 14年間の変化
- B 1 6. 林 一六(筑波大・菅平実験センター) 長野県菅平における植物遷移
- B 1 7. 田中徳久(神奈川県立生命の星・地球博物館) 神津島天上山の植物群落
- B 1 8. 山戸美智子(神戸大・院・総合人間科学研究科), 服部 保(姫路工大), 浅見佳世(株)里と水辺研究所), 武田義明(神戸大・発達科学) 琉球列島のススキクラス(半自然草原)の群落分類
- B 1 9. 島田和則(森林総研) 神津島天上山の火災跡地における再生群落の動態と地表攪乱の影響
- B 2 0. 大野啓一, 池田 正(横浜国大・環境研), 持田幸良(横浜国大・教育人間科学), 星 直斗(東京学芸大) 中部地方以北のイヌブナ林の種組成と立地環境 I
- B 2 1. 持田幸良(横浜国大・教育人間科学), 星直斗(東京学芸大・院), 大野啓一, 池田 正(横浜国大・環境研) 中部地方以北のイヌブナ林の種組成と立地環境 II

- B 2 2. 平山貴久, 芳之内祐司, 岳本 亨 ((株) 西日本科学技術研究所), 上岡政夫 (建設省中村工事事務所), 石川慎吾 (高知大・理) 四万十川坂本背割堤の多自然型川づくり実施箇所における植生動態
- B 2 3. 星野義延, 源島直之 (東京農工大・農) 多摩川支流秋川の溪流辺植物群落の生態分布
- B 2 4. 吉川正人 (東京農工大・連合農) 鬼怒川におけるヤナギ群落の分布と1960年代以降の河道特性の変化
- B 2 5. 菅沼孝之, 麻生 泉, 名迫素代, 富士 撰 (柳都市緑地研究所) 奈良県大峰山脈で鹿害を受けた天然記念物オオヤマレンゲ自生地の現状と保全

シンポジウム

「日本の群落体系はどこまでまとめられたか」

世 話 人：奥田重俊

座 長 団：菊池多賀夫・福嶋 司・奥田重俊

宮脇 昭：群落体系研究の意義

藤原 一繪：ヤブツバキクラスの群落体系と地理的分布

大野 啓一：日本海型ブナ林 (チシマザサブナ群団) の体系

村上 雄秀：日本のヒメコマツオーダーの体系

鈴木 伸一：イヌシデーコナラ群団について

中村 幸人：日本のコケモモトウヒクラスの体系

奥田 重俊：主な草本群落の体系